

## 玩具をモチーフとした絵画制作における色面構成の研究

教科・領域教育専攻

芸術系（美術）コース

指導教官 西田 威汎

川口 均

### I はじめに

これまでの制作で特に重視してきたことは色面構成による色彩の調和である。色彩に重点を置くために、制作の際は次のことに気を配ってきた。カラフルなモチーフを選択すること、実物大以上の大きさで描くこと等である。そのことによって色彩を主張するようにした。モチーフを単純化して色面としてとらえたり、単純な形態のモチーフを選択したりしてきた。奥行や広がりといった空間表現にとらわれるのではなく、色面と形態の構成を重視した結果として空間を表現できればと思い制作してきた。

1年間の制作を通じて、色面構成に変化が乏しいと感じるようになってきた。色面構成が単調な色分けに終わっていることも少なくないからである。筆者が制作したいと考えてきた、ふくよかな呼吸の大きな作品につながっていないことが課題である。そのためにここで取り上げる作品は、色彩と形態による画面構成を再考していきたい。

### II 制作過程

#### 1 モチーフの選択

私は玩具をモチーフとして制作している。なかでもミニカーに心引かれるものがある。各ミニカーのもつ様々な形態、鮮やかな着色がおもしろい。それらを白色半透明の箱に入れると、並べて直接見る場合とは別の趣がある。箱が曇りガラスの役割をしてミニカーの形態がぼやけ、

ミニカーの着色が直接的に伝わってくるからである。以上のことから、多数のミニカーを雑然と収納した箱をモチーフとして選択した。

#### 2 エスキース

エスキースを描く際は、黒鉛筆で形をとることだけでなく、色彩のことも考えながら進めていく。そのために当初のモチーフの構成には柔軟に対応する。エスキースを描きながら、モチーフの構成を変化させて色彩のバランスに変化をつけてみる。モチーフの構成を変えた場合は新しくエスキースを描くのではなく当初のものに重ねて描いていく。このことを繰り返す中から、モチーフの構成を比較、選択し表現したい空間を探っていく。

#### 3 本制作

単調な色面構成に色彩の変化をつけることを目的として制作を進めていった。

下描きはエスキースを写すのではなく再びモチーフを見ながら進める。モチーフから受ける印象を大切にするためである。油絵具で行う下描きと比較すると強く残る鉛筆の下描き線にとられすぎて色を塗る際に単調な色分けになってしまうことを防ぐために鉛筆で下描きを行わない。

着色の際はまずモチーフをおおまかにとらえて塗り、作品全体の色彩、形態のイメージを確認する。特にミニカーを収納した箱の側面は様々な見え方をするために注意した。中のミニカ

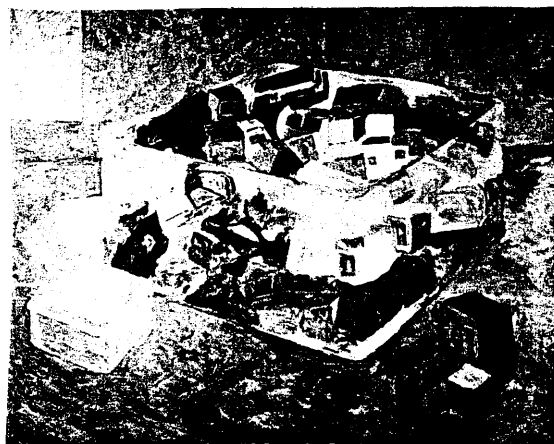
一の形態が完全に見える部分、曇っているがよく見ると見える部分、色だけしかわからない部分があるためである。側面内部の下描き線は推測的なものである。曇りガラスの効果を表現するために、形態を明確にとらえた下描き線にとられすぎないようにした。そのために側面は白色系の地塗りをし下描き線を見えにくくした。作品全体のイメージが決まると本格的に着色していく。着色の際は単調な色分けの作品にしないために次のようなことを行った。厚塗りと薄塗りの部分をつくるために同じ分量の絵具でも塗る面積に変化をつける。ヘンティングナイフを使用しフラットな色面をつくる。ヘンティングナイフで着色ではなく削ることによって下地の影響で微妙な色彩を出す。下描きの輪郭線に沿ってはっきりと塗りわけの部分、あいまいに塗り分ける部分をつくり、色彩の響き合いを多様にする。筆の勢いのあるタッチを残すことによって作品にリズムをつける。完全に乾いていない地塗りに着色することによって、グラデーションをもつ色面とやわらかな輪郭をもつ形態を表現する。色面と色面に一体感をもたせる効果をだすために同一色の地塗りの上から着色する。これらの多様な方法を組み合わせながら繰り返し着色していった。しかし、単なる技法の羅列になり、作品全体の色彩の安定感が失われないように注意する。一部分ではおもしろくても、作品全体からすると違和感がある場合があるからである。互いに色彩が反発するのではなく、一体感がでるように作品完成に向けて進めた。

### Ⅲ おわりに

色面構成に変化が乏しいために、筆者が制作したいと考えてきた、ふくよかな呼吸の大きなその課題の研究に取り組んだ結果、個々の色面

の中に微妙な変化をもち、呼吸感のある作品を制作する成果が得られた。多様な方法で色面を表現できるようになった。しかし、この多様な方法は作品全体と比較すると、狭い色面の部分に多く用いられがちである。広い色面の部分にも用いることが今後の残された課題である。

### 修了制作作品



『おかたづけ2』F100 2001年



『おかたづけ3』F100 2002年